

豊田高専広報

第128号

2022.3.8

National Institute of Technology (KOSEN), Toyota College



CONTENTS

- 01 巻頭言
- 02 シラパコン大学と第2回目となる国際会議ICEITを共催
- 03 KOSEN EXPO
- 05 ロボコン
- 06 ロボカップ
- 07 プロコン／英語プレコン
- 08 デザコン
- 09 体育祭
- 10 こうよう祭
- 11 全国高専体育大会ハンドボール競技／吹奏楽部演奏会
- 12 オープンキャンパス／公開講座 (1科こどもプログラミング体験)
- 13 学生会だより (新旧学生会)
- 14 学寮だより (新旧寮生会)
- 15 卒業生メッセージ
- 17 修了生メッセージ
- 19 外国人留学生卒業メッセージ
- 20 退職教職員挨拶
- 21 学生サポート室だより
- 22 令和4年3月卒業予定者の就職・進路状況
- 23 裏表紙 フォトカレンダー 10月～3月



豊田高専のこの五年間

たがわ ともひこ
豊田工業高等専門学校長 田川 智彦

高等専門学校は令和4年に制度創設60周年を迎えます。豊田高専は昭和38年に創立されたので、令和5年に創立60周年となります。本校では10年の節目毎に記念誌を発行してきました。今回も50周年誌以降の10年間を記録する記念誌編集委員会を立ち上げました。この機会に、着任以来の五年間について校長の視点からまとめさせていただきます。

私の着任は平成29年4月にさかのぼります。第4期中期計画において各高専がその特徴を発揮できるよう「KOSEN4.0イニ

シアチブ事業」が企画され、本校は地域貢献に軸足を置く「産官学金民の連携によるコトづくり育成事業の展開」が採択されました。産学連携実践セミナーにより、社会実装教育を強化するとともに、豊田市中心部に開設された「ものづくり創造拠点SENTAN」にも、とよたイノベーションセンターのオフィスを設置し地域発イノベーションの支援を強化しました。また、笹戸地区を拠点に「ドミタウン事業」を展開しました。

平成30年には、「Society5.0」への対応が掲げられました。本校でも情報教育の高度化を全学で推進するため、カリキュラムの改訂とこれを実施する体制として、マルチメディア情報教育センターの改組により、「ICTセキュリティ教育センター」を立ち上げ、平成31年4月1日に看板を上掲しました。一方で、多様化する学生支援に対応するため、学生サポート室の体制整備も進めました。令和2年にはスクールロイヤーも配置となりました。

令和元年度には、グローバルエンジニア育成事業に「英語を「使う」ことで育てる学生のグローバルマインド」で採択となり、「英語多読」と「長期海外留学」を連携させ、総合的な国際力育成を全学的に展開することにしました。外国人教員による「科学英語基礎」の完全英語化を実現し、また、シラパコーン大学(タイ)およびアルバルカ大学(ヨルダン)とMOUを締結しました。これらの事業を円滑に推進するため新たに「国際交流センター」を設置しました。

令和2年に入って、新型コロナウイルス(COVID-19)感染が急拡大しました。危機管理室による学校運営で、2月29日



には閉寮、臨時休校となりました。卒業式は縮小して挙行しましたが、入学式は中止でした。5月からは遠隔により授業を再開し、6月からは校長の許可による分散登校で実験実習を実施しました。8月31日からは対面授業を再開しましたが、寮生を約半分に制限し、海外留学も中止となるなど混乱が続きました。こうした中、国際交流ビデオコンテストの実施、シラパコーン大学との国際会議(ICEIT2020)の共催など前進もありました。

令和3年も波状の感染症拡大により緊急事態が続きましたが、電子出席簿を急遽導入し保健情報を迅速に共有するなど、全学で感染症予防に取り組み、再び全面休校にすることはありませんでした。夏には名古屋大学のワクチン集団接種に参加させていただき感染予防の切り札となりました。こうした中、2回目の国際会議(ICEIT2021)共催や、ビデオコンテストの継続など、新しい日常が根付いてきたようにも思われます。この間、施設整備は順調に進み、平成29年の大志寮、平成31年(3月)の創造工房棟、令和3年の輝志寮(国際寮)などの竣工が相次ぐとともに、高額設備の更新や校内インフラの整備も完了しました。

さて、私事で恐縮ですが、令和4年3月末をもって校長を退任いたします。激動の5年間でありましたが、皆様のおかげで何とか乗り切ることができました。ご支援・ご協力頂きました皆様に心より、感謝申し上げますとともに、今後も豊田高専をご支援頂きますよう、お願い申し上げます。

タイ・シリパコーン大学と第2回目となる国際会議ICEITを共催!

総務主事 機械工学科 教授 **清水 利弘** しみず としひろ

本校は、11月4-5日、タイ・シリパコーン大学と第2回目となる国際会議ICEITを共催しました。豊田高専としては同国際会議への参画は2度目となり、校長がキーノートレクチャーを担当する国際会議となりました。今年度は学生による2件の発表を含む7件の発表となりました。一高専での一つの国際会議での発表件数としては昨年度に引き続いて異例に多く、コロナ禍においても本校の教員が積極的に海外に活躍の場を求めるポテンシャルを持っていることを示しています。また、学生の国際会議での発表に関しては、大学生では学部時代に相当し、若年における発表となっています。

[URL]<https://www.toyota-ct.ac.jp/>

「国際会議ICEIT2021」実施概要

イベント名:国際会議ICEIT(International Conference on Engineering and Industrial Technology) 2021
開催日:2021年11月4日(木)、5日(金)
会場名:タイ・シリパコーン大学(バンコク)、オンライン各地
目的:キーノートは「リ・インベンション」シリパコーン大学を中心に工学、科学の広範囲における世界各地の研究者、技術者の交流を通じて新時代の科学技術の再発明をすること。

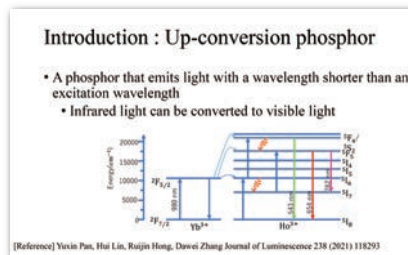


現地バンコクとオンライン各地の実行委員の記念写真

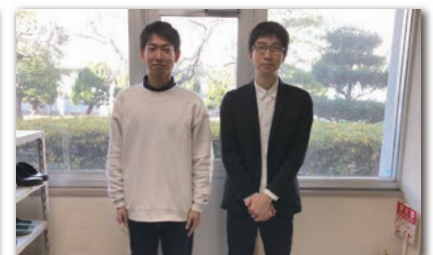
豊田高専とタイ・シリパコーン大学は、令和元年5月に学術交流協定を結んでいて、令和2年度から国際会議ICEITを共催(Co-host)しています。昨年度の第1回は科学技術に関する会議でしたが、第2回目となる今年度は、社会科学や芸術分野にも拡張したSICTAS2021に内包されての開催となりました。11月4-5日の2日間にわたり、タイ現地(バンコク)の会場と遠隔で世界各地の参加者を結んで開催されました。豊田高専からはキーノートレクチャー1件を含む7件の発表があり、うち1件は豊田高専が主催した、SDGsに関する国際交流ビデオコンテストについての社会科学分野での報告でした。発表した学生はこのような経験を通じて、臆せずに活躍の場を世界に求める技術者を目指します。また豊田高専教員は研究、教育実績をますます世界に向けて発信していくきっかけとなりました。



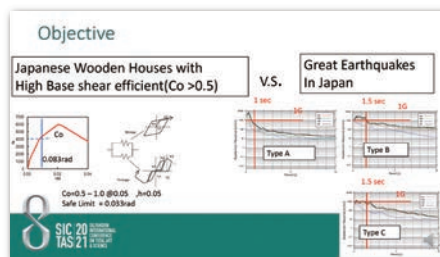
豊田高専田川校長のキーノートレクチャー
 田川智彦校長:キーノートレクチャー
 「高選択性触媒反応への燃料電池システムの利用」
 Use of fuel cell system for highly selective catalytic reaction



電子機械工学専攻学生のプレゼンテーション
 「蛍光体のアップコンバージョン特性について」
 Optical properties and crystal structure of LaOF: Yb, Ho



発表した豊田高専専攻科電子機械工学専攻1年生
 天野君(左)と指導された野中教員



建築学科山田教員によるプレゼンテーション
 「日本木造家屋の耐震特性について」
 Maximum Response of a Japanese Wooden House with High Base Shear on Recent Observed Earthquake Motions in Japan



一般学科市川教員(前列右から2)による
 プレゼンテーション「学生によるSDGsに
 関するビデオコンテスト」の中のコマ
 International Video Contest with Young Perspective on SDGs

KOSEN EXPO

▶▶ KOSEN EXPOの発表について

建築学科 准教授 もりかみ しんや 森上 伸也 (指導)

2021年10月20日(水)および10月21日(木)に独立行政法人国立高等専門学校機構が主催の「KOSEN EXPO」がオンラインで開催されました。特設ページによると、KOSEN EXPOとは「研究・教育の成果の社会実装を目指す高専」と「高専の技術・アイデアを活用した課題解決を目指す企業・団体等」との連携を目的としたイベントであると記載されています。2022年2月28日(月)まで参加登録後に発表動画の閲覧もできました。

参加登録者は6千人を超え、当日も多くの方が聴講する中、本校からは建設工学専攻2年生の朝倉丈喜さんと松原暢さんが15分間の発表をしました。発表タイトルは「エネルギーに頼らずに健康で豊かな住まい方を目指す」で、専攻科で行っている実験・実測をベースにした内容です。前半は朝倉さんが冬期のヒートショックを軽減するための研究内容について発表しました。冬期のヒートショックは、入浴時に暖かい居室から寒い脱衣室および浴室や、熱い湯が張られた浴室に入ることによる気温等の変動が原因で起こるとされています(諸説あります)。その対策として、入浴前に温かい／冷たいものを飲むことで血圧変動の抑制効果を確認するために被験者実験を行い、その結果について発表しました。続いて松原さんが、夏期に室内への通風量を多く確保するための装置について発表しました。装置は指導教員のアドバイスのもと自分で開発・作成し、効果を実証するための実測は研究室のメンバー11人

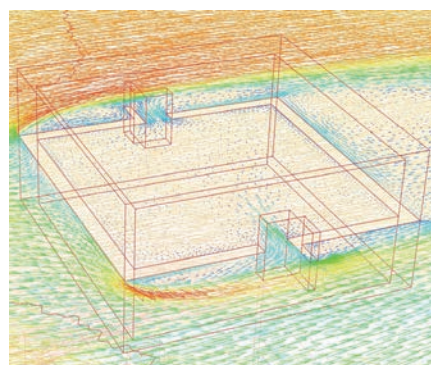
全員で協力して実施しました。

二人はKOSEN EXPOの話を持ち掛けたときも快く引き受けてくれて、慣れないオンラインによる発表も堂々としていました。朝倉さんの研究はこれまで森上研究室で実施してきた研究を違った視点から検討していて、研究の幅が大きく広がりました。松原さんの装置はとても画期的で、現在は特許出願のための書類を準備中です。いつも明るく研究室でアクティブに活動し、一所懸命に発表してくれた二人をはじめ、実験を手伝ってくれた研究室の学生および関係の皆様感謝の意を表します。ありがとうございました。



高専とつながる! 高専で見つかる!

KOSEN EXPO特設ページより引用



ウインドキャッチャー使用時の気流分布(イメージ)



▶▶▶ KOSEN EXPOの発表に参加して その1

建設工学専攻 2年 あさくら たけよし 朝倉 丈喜

私は今回のKOSEN EXPOを通じて、自分の研究に関する知識のない方に向けて分かりやすく説明することの大切さを学びました。普段の学内で実施している発表であれば、建築に関する専門用語を多用しても理解してもらえます。しかし、建築や研究に関する知識のない方に、自分の研究の意義や楽しさを伝えることは難しいですし、理解してもらえないとつまらない発表になってしまいます。そうならないように注意して、今回のKOSEN EXPOで「初めての方にもわかりやすい発表」を意識することができるようになりました。



▶▶▶ KOSEN EXPOの発表に参加して その2

建設工学専攻 2年 まつばら とおる 松原 暢

記念すべき第一回KOSEN EXPOにおいて、豊田高専代表として発表させていただく機会をいただき、感謝しています。学会発表も未経験で、オンラインによる発表も未経験だったので緊張しましたが、とても良い経験ができました。KOSEN EXPOを通して企業の方にさらに研究室のことや高専について知っていただく機会になれば良いと思っています。発表では森上研究室で行っている研究について発表しました。私は通風量の増加を目的とした新たなウィンドキャッチャーの開発に関する研究をしています。今回の発表を通して、より多くの人に新たな可能性を知っていただけたらよいと思います。



低学年チーム、頑張りました!

かみなが まほ
機械工学科 助教 神永 真帆

今年の高専ロボコン地区大会は昨年同様、各学校からパフォーマンスの様子を配信するオンライン形式での開催となりました。競技課題名は「超絶機巧(すごロボ)」。各チームが、見る人をあっと言わせる「すごい! 技のロボット」を製作し、2分間のパフォーマンスを行いました。豊田高専Aチームは、愛知県出身のフィギュアスケーターが多いことに着目し、スケートの演技を魅せるロボット「オルテンシア」を製作しました。

「オルテンシア」はイタリア語で「紫陽花」を意味し、名前の通り華やかでダイナミックなロボットを目指して製作されました。より人間らしく見せるため、高専ロボコンでは珍しい二足型を採用し、衣装やBGMにも工夫を凝らしました。大会前日にロボットの体を支える際の機構が破損するアクシデントが発生しましたが、ギリギリまで機体の修理とプログラムの調整を行い、本番では完璧なパフォーマンスを披露しました。

全国大会への出場は叶いませんでしたが、チームメンバーのほとんどが高専ロボコン初参加の1,2年生でありながら、1年弱で大会に出場できるロボットを作り上げた急成長には、目をみはるものがありました。「ロボコン」とは何か?一人一人の学生が、今回の大会を通じて

自分なりの答えを見つけることができたのではないかと思います。来年の大会では、今回の学びを生かし、さらに成長した姿を見せてくれることを期待しています。

最後になりましたが、日頃よりロボコン活動へのご支援をいただいている豊田高専同窓会、豊田高専教育後援会の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、豊田高専のロボコン活動を、どうぞよろしくお願いたします。



最終調整に向けた相談中



オルテンシアの全体像



装飾の調整中



両腕を広げたポーズをとるオルテンシア



膝関節の様子を確認中



パフォーマンス前のプレゼンテーション

プロジェクト『庭師』~タンポポに想いをのせて~

まつなが てっしゅう
電気・電子システム工学科 4年 松永 哲周

今年のルールは『超絶技巧』(すごロボ)。いかに6×6mのフィールド上で、すごいロボットのパフォーマンスを披露するか、メンバー達と約一か月間毎日、紆余曲折ながらもアイデア出しを行いました。なかなか思い通りにはいかず、「すごいロボット」とはなにかと悩まされ続け、最終的に、「折り紙」を応用した、すごい技術を織り込んだ「タンポポ」のロボットを作ることに決めました。とはいえ、「折り紙」に関しては全員素人であることや、タンポポのロボットってなんだ?と、ほとんどのメンバーが目標や完成像を見出すことができず、メンバー内での温度差が生まれてしまうなどチームをまとめづらい状況であったり、そこに緊急事態宣言の発令によって、大事な夏休みの期間の活動が半減してしまったりすることもありました。やっとの思いでロボットが完成したのは本番前日のテストラン予定時刻の後。オンライン開催による本番当日に、唯一再テストランをすることになりました。しかし本番では、練習で見せることのできなかつた最高のパフォーマンスをすることができました。結果は40点中の37点で同率3位となり、惜しくも3年連続全国大会出場することは叶いませんでしたが、デザイン賞を受賞しました。悔しいですが別の形で結果を残すことができ、嬉しく思います。最後に、こんなリーダーに最後までついてきてくれたメンバー達と日頃からロボコン活動を支えてく

ださっている一部OBの方々、指導教員の先生方、ご援助頂いている同窓会、教育後援会の方々、温かく応援してくださいました保護者の皆様様に感謝申し上げます。来年は全国で活躍する「すごい」と言わせるようなロボットを作り上げてくれることを期待しています。今後とも応援よろしくお願いたします。



ロボカップ

ロボカップ2021世界大会バーチャルトーナメント5位・ハードウェアチャレンジ4位・同アジアパシフィック大会3位!

電気・電子システム工学科 教授 杉浦 藤虎

6/22~6/28にオンラインで開催されたロボカップ2021世界大会に出場し、サッカー小型リーグ(SSL)バーチャルトーナメントとハードウェアチャレンジにおいてそれぞれ、5位と4位に入りました。また、11/25~11/28に愛知県国際展示場で開催された同アジアパシフィックあいち大会に出場し、3位に入賞しましたのでご報告致します。

バーチャルトーナメントはドイツチームが開発したシミュレータを使い、対戦チームの実機ロボットの情報を仮想ロボットに反映させた上で、オンラインで16チームが試合を行いました。今大会はグローバルに試合が開催されたため、南米や欧州チームとの対戦では早朝の試合開始が多く、また、レフェリーは深夜に割り振られるなど、例年以上に体がきつかったです。寝落ちて見られなかった試合や、深夜に割り振られた審判に気づくのが遅れ、急遽学生の自宅からレフェリーを担当してもらった試合もありました。

予選を1勝1敗1分けのB組3位で通過。決勝トーナメントではC組2位通過のRoboJackets(USA)に1-0で勝利。続くD組1位通過のRoboDragons(愛知県立大学)戦はお互い一步も譲らず、延長戦でも決まらず、ペナルティシュートアウト(ハーフラインよりも自陣側からドリブル・キックしてゴールを狙う)での決着は1-0でKIKSの勝利。ベスト4を決める試合はB組1位通過のTIGERs Mannheim(今大会優勝:Germany)との再戦でした。KIKSは初戦から戦略を変え、見違えるような動きとパス回しで、これまで無失点で勝ち上がってきた相手に前半中盤に1点を先取り、同点とされた後も追加点を挙げ、2-1とリードしたまま後半戦に。ハーフタイム中に相手は攻撃重視の戦略に変えてきました。堅く守ってきた隙を突かれ同点とされ、終了間際にも加点され、2-3で惜敗。5位に終わりました。結果的に優勝チームから得点したチームはKIKS以外になく、しかも2点を奪った試合は誇れる内容でした。ハードウェアチャレンジは創造工房棟2Fフィールドで実機ロボットを使って、スラロームのタイムトライア

ルやさまざまなシーンでの得点能力やパスプレイの性能(回数)を競う課題で、12チーム中4位の成績でした。

今年の世界大会には学生8名とともに出場しました。リーダーの2DE内藤優星君をはじめ専攻科生が中心となってAI開発や戦略、ロボットの作製・整備を担当し、それぞれの役割の下、チーム一丸で試合に臨みました。初参加の本科3、2年生の学生は主審や副審を務め、スムーズな試合進行に尽力してくれました。ネイティブの英語が飛び交う中、緊張と不安で一杯であったと思いますが、的確に両チームに指示する姿は本当に頼もしく感じました。このような国際大会への出場は学生の自信を養い、一回り大きく成長させる本当に貴重な機会となっています。大会中は6時~21時過ぎまで熱心に試合や審判に臨んでくれた労をねぎらうとともに、彼らの努力に敬意を表します。今年は、全リーグ全試合オンラインというロボカップ始めて以来の試みでしたが、想像していたよりも楽しめ、戦略の確認や方針を確認する上でも有意義な大会でした。

一方、アジアパシフィック2021大会では海外チームがすべてオンラインでの参加となり、オンサイトのみ開催のSSLでは、実質的に国内6チームでのジャパンオープンとなりました。予選を2位で通過し、優勝も意識しましたが、決勝トーナメントでロボットの故障が頻発し、脱輪により動けなくなったところで失点・敗退し、3位となりました。なお、表彰式では3位入賞に加え、「70Wブラシレスモータのダイレクト駆動およびドリブルバーの保持力強化と通信遮断に対応可能なシステムの構築」が高く評価され、ロボット学会賞を受賞しました。優勝まであと一步という確かな手応えを得ましたので次回に向けて一層努力したいと思います。結果の詳細は下記URLをご覧ください。

<https://ssl.robocup.org/robocup-2021-results/>

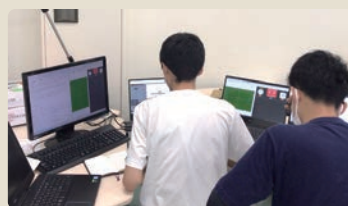
<http://www.ee.toyota-ct.ac.jp/~sugi/RoboCup.html>
(Twitter #KIKS_SSL)



オンライン会場(創造工房棟2F)



緊張の試合開始前



Refereeに奮闘(心臓バクバク)



ハードウェアチャレンジ(ボールを保持してのスラローム競技)



世界地図上に示された全参加チーム(以上世界大会2021)



試合調整の様子と3位賞状およびトロフィ(アジアパシフィック大会2021)

10月9日と10日にオンラインで開催された全国高等専門学校プログラミングコンテスト、通称高専フロコンの競技部門において、私たちのチーム(情報科学専攻1年 長坂 光将、情報工学科5年 三井 敦稀、情報工学科2年 宇井 颯汰)は準決勝に進出することができました。

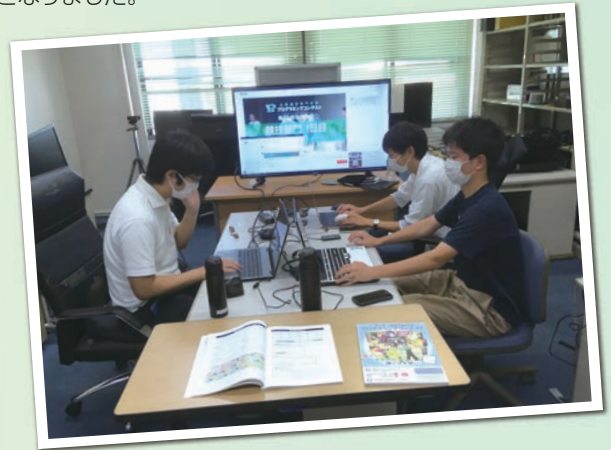
高専フロコンには、課題部門、自由部門、競技部門の3部門が存在します。私は、情報工学科2年生の時分から競技部門に参加してきました。しかしながら、4年生の時は台風の影響により出場を辞退し、5年生では新型コロナウイルスの影響により競技部門が開催されず、自由部門と課題部門のみがオンラインで開催されました。

3年ぶりに参加した今回の競技部門の課題は、バラバラに並べられた正方形の画像ピースから元画像を推測し、推測した位置に並び替える方法を探索することでした。画像ピースが正しい位置にあり、その位置に画像ピースを移動させるために、画像ピースを入れ替えた回数は何回かということのを他の高専チームと競い合いました。

今回の競技では、自分は推測した位置にピースを移動させる方法を探索するシステムの開発を担当しました。これまでの経験から、一発勝負の本番でシステムが動作しないことが無いようにシステムを開発しました。そのため、高度な探索を行うことができなかつたのですが、予選と準決勝の問題に対して正常に解答を出力することができま

した。また、チームメンバーの2人が高精度な元画像推測システムを開発してくれたことも、準決勝に進出できた大きな理由だと考えています。

自分がより高度な探索システムを開発することができていれば、決勝に進出することができたのではないかと反省する点もありましたが、チーム全員の実力で準決勝に進出することができ、非常に良い経験となりました。



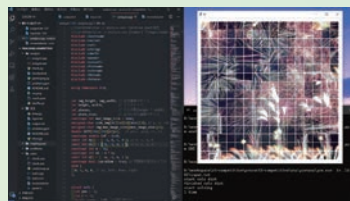
今年の全国高等専門学校プログラミングコンテストはオンラインで開催され、豊田高専オープンキャンパスと同日に本校からリモートで参加しました



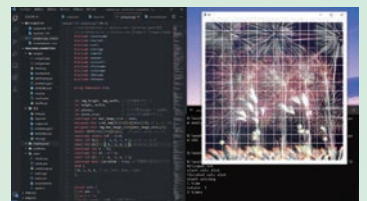
バラバラに並べられた正方形の画像ピースを正確かつ高速に元画像に並び替えるプログラムを開発しました



準決勝の第4試合に参加し、結果を見守っている様子



パズルを解く前の画面



パズルを解いた後の画面

英語フレコン

主体的に学ぶということ

えんどう そうま
一般学科 助教 遠藤 颯馬

第15回高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(シングル部門・チーム部門)

毎年恒例、全国高等専門学校英語教育学会主催の英語プレゼンテーションコンテストが今年度も開催された。新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度に引き続き今年も、事前に録画をして主催者に送るという形式での開催となった。残念ながら、予選突破とはならなかったが、授業とは異なる学びの機会となった。参加学生とプレゼンのタイトルは次の通りである。

〈シングル部門〉

羽根 萌恵さん(環境都市工学科4年)
Girls and Engineering
城 知希さん(環境都市工学科2年)
Living with disasters

〈チーム部門〉

林田 美樹さん(建築学科1年)
三浦 緋奈さん(建築学科1年)
角野 心音さん(建築学科1年)
Why do people live in houses?

自分の意見を整理して、聴衆に明確に伝えるのは、母国語でも難しい。外国語を使ってとなれば、大変な努力が必要であることは言うまでもない。今回、参加してくれた5人の学生は、夏休みや放課後を利用して、自分の考えをまとめ、英語で書き起こし、聞き手に伝えるための練習を幾度となく繰り返してきた。練習の過程で、指導という名のもと、教員の意志が作品全体に反映されてしまうことは多い。ともすれば、学生ではなく、教員の作品ともなりがちである。だが、彼(女)らは

そうではなかった。教員からの助言を決して鵜呑みにすることなく、自らの意見を主張し、ときには信念を貫き通した。良い作品を作り上げるため、主体的に努めていたのである。実際に、日を追うごとに表現力が磨かれ、我々の想定よりも、格段によい作品に仕上がった。

主体的に学べるのは、本校の学生の良さと言ってよい。そして、この点は、教員が学生から学ばなくてはならないことでもある。英語フレコンを通して、大切なことを思い出させてくれた5人に感謝の言葉を伝えたい。



デザコン

デザコン(構造部門)に参加して

建設工学専攻 1年 たかお しょう 高尾 笙

紙(ケント紙)で橋を作るというのは奥が深い。デザコンが終わった後に感じることは、この一言に尽きる。というのも、まず橋の形を考えなければならない。そこから、50kgのおもりを載荷し、さらに砲丸球を転がすため、一つ一つの部材をどのくらいの長さにするのかをCADを使って調べ、どこにどのような力が生じるのかを検討しなければならない。構造力学の授業の応用版と言っても過言ではない。構造力学をしっかり勉強していたよかったと思う。橋の全体像が出来てからはよいよ紙で設計するのだが、部材を作るのが難しい。私たちは、ケント紙を丸めた棒材を組み合わせたトラス橋を作ろうとしたが、丸棒を作る作業すら難しい。紙を広げ、そこに全体的に薄く木工用ボンドを塗り、巻いて製作する。最初は全員綺麗に作れなかった。紙がヨレヨレになった場合、それが弱点と

なってしまう。メンバーで試行錯誤し、ようやく綺麗に巻ける方法を見つけた。そのおかげで作業効率も上がり、必要数の部材も作り終え、いざ設計。デザコンのルールで橋の軽さも点数化されるため、力がかからないところは極力、軽い部材を使うことにした。試作に試作を重ね、約500gの橋が完成し、デザコンに臨んだ。

当日、30校以上の高専が出場していて、最初は橋の紹介があり、全校の橋を詳しく聞いた。中には私たちが作った橋の半分の重さで出場している高専もあった。そのような軽い橋はすぐに壊れてしまうのではないかと感じたのも束の間、載荷試験の時、私たちの橋は30kgの重さに耐えられずに壊れてしまったが、私たちの橋の半分の重さの高専は50kgのおもりをクリアし、砲丸球も軽々と転がしていた。私たちの未熟さを痛感した。もう一回言うがこれは奥が深い。



デザコン構造部門の参加メンバー(建設工学専攻1年 左から原田、高尾、安田)



ケント紙による橋模型の制作状況

友達から仲間へ

建築学科 4年 ありま 有馬 ヨオマ

私は、同じクラスの後藤和也くん、中村光我くん、安間悠人くんの4人で高専デザコンの課題に取り組みました。今回のデザコンの空間デザイン部門の課題は「住み継がれるすまい」というもので、4年前期の授業課題のテーマにもなっていました。

私たちは1年生のときから建築課題に積極的に取り組んでおり、互いに認め合っていました。作業が始まると4人の建築に対する考え方や好みの違い、作業日程を合わせることの難しさなどが目えて来ました。

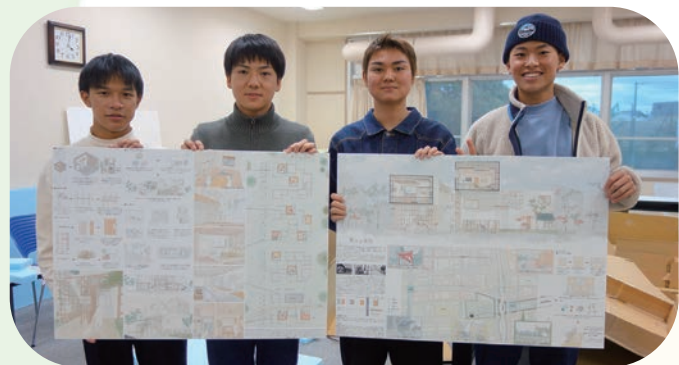
時間がない中、全力で完成させた第1回目の授業提出の評価は自分たちが思っている以上に厳しいもので、これ以上時間をかけてブラッシュアップし、デザコンへ提出するかどうか迷いました。しかし、自分たちでチームを作って全国高専デザコン出場を目指したからには最後まで努力しようと決め、本戦出場に向けてさらにブラッシュアップしたものを提出しました。

数週間後、ウェブページを見ると本選出場者決定の知らせに「豊

田高専」の文字があり、歓喜しました。いつの間にか私たちの目標は、本選で入賞することになっていました。

それからはデザコンの審査員の方々からのフィードバックにひたすら向き合う日々が続きました。それぞれの貴重な時間を使って本気で取り組んでいるからこそぶつかり合うことも多くありました。しかし、ただの友達ではなく仲間として良いものを作るためには妥協せず、自分の意見を伝え、時には場の雰囲気が悪くなってもみんなで納得できるまで話し合いました。

こうして迎えた本戦で、審査員特別賞を勝ち取ることができ、目標の「入賞」を果たすことができました。対面での大会であったため、他の高専の方々の作品を間近に見ることが出来たとても貴重な機会となりました。何より、4人で一丸となり、目標を達成したという自信が湧きました。この経験を糧にして、今後活かしていきたいと思えます。



体育祭

すぎやま はるや

体育委員長 電気・電子システム工学科 4年 杉山 晴也



今年度は、体育祭は雨で順延となり、1週間延期したのちの開催となりました。また、昨年度に引き続きコロナ禍での開催となりました。私は、コロナで落ち込んだ雰囲気はこの体育祭で盛り上げるために二つのことを心がけて運営し、実行することができたと思います。

1つ目は、参加学生を増やすことです。そのためにも、どうすれば学生が参加してくれるか考えました。色々考えた末、競技と参加賞の拡充を行うことにしました。綱引きや応援合戦といった見応えがある競技を考え積極的に告知を行いました。また、参加学生全員に対してアイス1つに引換えできるアイス券の配布を行いました。この参加賞ですが、当初は学生1人に対してチェキ撮影を1枚行う、というものにしていました。しかし、企画している中で友人に相談したところ、あまり魅力を感じないといった声も聞かえてきました。そこでformsを活用し学生にアンケートを採りました。事前に周りの意見を柔軟に取り入れることができたので、学生が望むものに近い答えを出せたのではないかと思います。さらに、高学年でも全員出席したクラスもあったため、うまくいったのではないかと思います。

2つ目は、綱引きを企画したことです。学生総会のとき学生が騎馬戦のような目玉競技を求めているのを感じました。しかし、感染症対策の観点から騎馬戦を行うことができませんでした。そこで、私は、騎馬戦に代わる目玉競技を考えました。騎馬戦の長所として、戦略を考え、大勢で参加することができ、視覚的にも勝ち負けがわかりやすく、応援しやすい、といったことが挙げられます。この特徴を踏まえ、体育委員会会計の伊藤君と話し合いを重ね、知恵を絞りやっとの思いで、綱引きという感染症対策もできる競技を見つけ出すことができました。結果として、綱引きは、大いに盛り上がったのではないかと思います。

体育委員長として、私が携わったのは、昨年度の学内対抗駅伝と

この体育祭ですが、昨年度の学内対抗駅伝は、感染拡大の影響で実施することは叶いませんでした。そのため、初めて運営するのがこの体育祭となったため、とても緊張していました。さらに、昨年度の体育祭は、感染症による制限が多かったにもかかわらず、とても盛り上がっていたため、それを越える良い体育祭が作れるだろうかと、とても不安を感じていました。また、当日もスタートのピストルを失敗したり、閉会式の準備に手間取ったりするなど、トラブルもありましたが、周りの助けを借りることで乗り切ることができました。また、実際に開催してみると、当日朝から予想以上の参加者に驚くとともに、とても安心しました。

私は、体育委員長として、この体育祭を運営するという貴重な経験をすることができました。しかし、私1人ではもちろん、この体育祭を成功させることはできませんでした。この体育祭で、手伝っていただいた体育委員、先生方、そして参加していただいた学生の皆さんのおかげで、この体育祭を成功させることができた、と胸を張って言い切ることができます。本当にありがとうございました。この体育祭を皆さんが楽しんで参加している姿を見ることができてとても嬉しかったです。また、

学生の皆さんは、来年度、さらに盛り上がり、楽しめる行事になることを期待していただきます。私は、感染症が収束し、制限のない自由な行事に戻ることを願っています。



プログラム

1	開会式
2	準備体操
3	応援合戦
4	女子競技
5	クラス対抗リレー
6	学科対抗対抗リレー
7	障害物競走
8	ソーシャルハリケーン
9	大戦略綱引き
10	閉会式

成績

学科	優勝	機械工学科
	準優勝	環境都市工学科
	第3位	電気・電子システム工学科
クラス	優勝	1年環境都市工学科
	準優勝	1年機械工学科
	第3位	1年建築学科
応援合戦	優勝	建築学科
	準優勝	環境都市工学科

こうよう祭

k o u y o u s a i

YOU+MORE

こうよう祭実行委員長 機械工学科 4年 すずき かい 鈴木 海

豊田高専の一大行事であるこうよう祭が11月6日(土)、11月7日(日)に行われました。今年も昨年に続き新型コロナウイルスの影響で縮小開催となってしまい地域の方々、地元の友人、卒業生が参加できなくなってしまいとても残念でしたが天候にも恵まれ大きな事故、トラブルなく終えることができました。昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響を考え、感染症対策を先生方と何度も話し合い展示、イベント、模擬店などを行いました。

縮小開催、そして入場制限があったため当日人が来てくれるのか不安でしたが事前登録のフォームでは1000人弱の登録がありたくさんの方々に来ていただけました。当日来場して下さった在校生と保護者の方々、また中学生とその保護者の方には、一人一人ルールを守り、感染症対策をしながら楽しんでくださったことに改めて感謝しております。ご協力ありがとうございました。

今年のこうよう祭のテーマは「YOU+MORE」でした。このテーマには「もっとできる!」という励ましの意味、そして「ユーモア溢れるこうよう祭にしよう!」という意味を込め各パートリーダー、幹部で話し合い決定しました。今年度のこうよう祭にはテーマのようにたくさんの励まし、ユーモアが見られました。とっても素敵なおしゃべりボードや感染症対策をしながらの様々な楽しいイベントなど学生達のユーモア溢れるアイデアに驚かされました。こうよう祭に来てくださった全員の笑顔を目撃することはできませんでしたがたくさん見ることができ実行委員長としてとても充実した2日間でした。

今年度のこうよう祭では新しい挑戦をしました。それはキッチンカーを呼ぶことでした。新型コロナウイルスなどの影響によって学生たちの模擬店で出店できる食べ物はあまり多くありませんでした。そこで先生方と話し合いキッチンカーを呼んでみようかと決めました。コロナ禍の影響をポジティブにとらえたアイデアは当日までとても不安でした。しかし2日間ともキッチンカー、模擬店の両方で行列ができていて、先生方や来場者の方々からも喜んでもらって挑戦してよかったなと思いました。

今年度のこうよう祭は、目玉企画としてスタンプラリーを行いました。

した。各展示を回ってスタンプを集め、ガラガラの抽選を行うというもので特賞にはamazonギフトカード1万円分を2つ用意しました。今年度は両方とも一般の方が当選しました。2日間でスタンプラリーに参加して下さった方は1000人弱にのぼり、大変盛り上がりました。抽選の参加者の中にはすぐ帰る予定だったが、せっかくスタンプラリーがあるからと予定外の教室をまわり思いがけず楽しかったという声もありました。

今年は昨年の反省で多く出た待ち時間が分りにくいという課題を解決するため、待ち時間を本部で見られるように後輩にソフトを開発してもらいました。その結果、待ち時間が分からないという声はありませんでした。2年連続での縮小開催となり制約がある中での開催でしたが、4年生の学科展示、2年生のクラス展示、建築学科3年生によるゲート、部活動や同好会による有志展示はどれも素晴らしいものばかりで豊田高専の技術力の高さに大変驚かされました。

最後になりますがコロナ禍ではありますがこうよう祭を安全に行えたこと、そして多くの人に来ていただけたことをとてもうれしく思います。これは一緒に活動してくれた幹部、各パートリーダー、協力して下さった先生方、そして全ての実行委員の皆に、感謝の言葉を伝えたいです。ありがとうございました!新型コロナウイルスが一刻も早く収束することを願っております。



● 全国高専体育大会を終えて

ハンドボール部主将 情報工学科 4年 ^{すずき りょうすけ} 鈴木 良助

ハンドボール部は、12月に岩手県盛岡市で開催された全国高専体育大会に出場しました。昨年度の大会が新型コロナウイルスの影響で中止になり、今年度の大会も当初は8月開催の予定が12月開催となりました。その状況下でモチベーションを保つのが難しい中、部員一丸となって日々の厳しい練習に取り組みました。

全国大会の結果は、決勝戦で徳山高専に1点差で負けて準優勝というとても悔しい結果となりました。決勝戦以外の試合ではほぼダブルスコアでの勝利をおさめ、いい流れで決勝戦に臨むことができましたが、前回大会優勝校の徳山高専にはあと一歩及びませんでした。私自身はずっと怪我に悩まされながらも全国大会では周りに評価されるプレーを連発することができ、大会優秀選手賞を受賞することができました。ただハンドボールは個人種目ではないので、個人が結果を残しただけでは何の意味もなく、チームで良い結果を残すことが最

良です。今年のメンバーの主力は4年生で5年生の抜ける穴は大きくはないので、今回の敗戦で浮き彫りになった各自の反省とこれからの課題を明確にして来年の大会に向けて日々の練習に取り組んでいきます。今回の敗戦を忘れず、来年もキャプテンとしてチームを引っ張っていきます。

来年はただ優勝するだけでなく、「圧倒的な力を見せつけての優勝」を目指して毎日の練習に取り組んでいます。簡単な道のりでないことはわかっていますが、自分らにできることは目の前の練習に全力で取り組むことです。しっかりと周りが納得する結果を残し、強いハンドボール部を取り戻すために、一生懸命戦っていくので応援よろしくお願いします。必ず結果を残すので期待してください。



● 演奏の楽しさを再認識した2年間

電気・電子システム工学科 准教授 ^{おおの わたる} 大野 互
情報工学科 4年 ^{やまだ かつき} 山田 活樹

昨年の3月に端を発した新型コロナの蔓延に伴い、制限が多く、更に室内での楽器演奏ということから、感染対策に気をを使う中での練習となりました。

そのような状況の中、8月の吹奏楽コンクールをはじめとした訪問演奏など、演奏の機会は中止になるものが多く、こよう祭、定期演奏会が令和2年度の数少ない演奏の機会となりました。しかし、第41回演奏会では、年末の感染拡大の影響から、直前まで判断に悩みながらも、残念ながら当日は無観客の演奏となりました。

今年度は、部員の皆さんの感染防止に対する活動から、幸いにも感染者を出すこともなく、日々の練習を続けることが来ましたが、今年度も残念ながら期末試験の日程の関係から吹奏楽コンクールに参加することができませんでした。

こよう祭では約2年ぶりとなる観客を迎えた全部員で演奏する機会となり、改めて楽器を演奏することの楽しさを感じることでイベントとなりました。

今回の第42回演奏会はオミクロン株が広がる厳しい状況の中、1

月22日に開催されました。残念ながら、直前の学級閉鎖のため、全員での演奏とはなりませんでしたが、悔いが残らないよう全力で演奏会に挑みました。第1部はアルセナール、フィンランディアをはじめとしたクラシカルステージ、第2部はオリジナルステージ「WIND QUEST～旅立つ勇者たち～」、第3部は「ダンス」をテーマとしたポップスステージという構成で開催いたしました。昨年度は、演出なし、演奏のみの形式に終わりましたが、今年度はダンスなどの演出を加え、お客様に楽しんでいただけたのではないかと思います。

ご来場いただいたお客様、活動を支えてくださった学校教職員の皆様へ感謝申し上げます。



オープンキャンパス

環境都市工学科 教授 ^{かわにし} ^{なおき} 川西 直樹

今年度(令和3年度)のオープンキャンパスは、10月9日(土)、10日(日)の2日間にわたり予定どおり開催することができました。計画当初はコロナウィルス感染の拡大時期でもあったことからオープンキャンパスの開催について危惧しておりましたが、開催日付近になると感染状況も落ち着き始めていました。なお、新型コロナウイルス感染予防のため、①インターネットによる事前予約制、②入場者は中学3年生とその保護者のみに限定、③午前/午後の完全入れ替え制による制限に加え、受付時に検温と手指消毒を行っていただくなどの対応をとりました。

今年の参加者数は727名(土曜日409名、日曜日318名)で昨年度と比較して300名ほど人数が減少しました。コロナ禍の状況であったことに加え、オープンキャンパス開催前に本校で複数回対面実施された学校説明会(募集説明会)に多くの中学生と保護者が既に参加されていたことも影響し



ていると考えられます(昨年度の学校説明会はコロナウィルス感染防止のためインターネットによるオンライン開催となっていました)。

例年同様、本校学生による案内や説明などの活躍が目立ち、各公開場所における学生の対応について、来場者の多くの方々からお褒めの言葉をいただきました。来場者によるアンケート結果から、オープンキャンパスの感想として、「とても良かった」、「良かった」と答えられた方が99%を越えておりました。また、ほとんどの方は豊田高専の受験を考慮されている方で、既に本校を受験する意志がある方も75%を越えておりました。

昨年に引き続きコロナ禍における入試を終えようとしております。今年のオープンキャンパスの結果が、冬の入試倍率にどのような影響を与えるか、注意深く見守っているところです。

公開講座

10行のプログラミングで高専と地域を繋ぐ!

情報工学科 准教授 ^{つづみ} ^{けいた} 都築 啓太

昨今のプログラミング教育必修化といった背景もあり、こども向けのICT教育の需要は日に日に高まっています。こども向け電子基板を用いた公開講座「ちっちゃなコンピュータ」シリーズの講座を12/24のクリスマスイブに開催しました。毎回、ホームページ記載の定員に対して2倍以上の申込みとなるこの講座ですが、要となるのはアシスタントとなって活躍する「高専学生」です。毎回7名程度の情報工学科の低学年が参加者と交流することで主催者も参加者の成長に資する活動でもあります。

講座の進行を務める私自身も、こどもたちの発想に驚いたり癒され

たりしながら、これまで稲垣先生と一緒に6年も講座を続けることができています。このような公開講座・出前授業・地域の課題

解決をテーマにしたコンテスト作品は、学生・学校と社会とを繋ぐ大事な接点だと思っています。高専では、ほかに一般のみならず向々の様々な講座を開催しておりますので、ご家庭で「高専」を知らない方々にもご紹介いただければ幸いです。これからも講座を裏側で支えてくださる学内の皆様に感謝しながら継続していきたいと思っております。



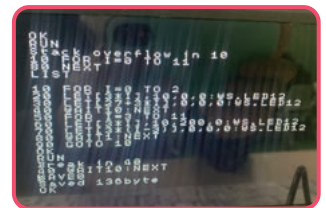
午後の部 午前×午後で総勢50名程度の参加者となる

参加者からアシスタントになる日

情報工学科 2年 ^{もとかわ} ^{かいと} 元川 魁人

私は3年前にこのイベントに受講者として参加していて、自分で好きなように作れるプログラミングは面白いと思いました。中学生として参加したこの講座以降に様々なプログラムを作るようになって、現在の高専生である自分自身に繋がっていると思います。

中学生からするとプログラミング言語は勉強することが多くて大変だと感じる部分があると思います。このイベントは技術紹介を含め3時間と



オリジナルクリスマスイルミネーション発表会では参加者も保護者も観覧を楽しみました。プログラムはたった10行程度のプログラムで面白い光らせ方ができます。

いう小中学校の授業よりも長い講座です。しかし、参加したこどもたちは初めて触れるプログラミング言語をみるみる習得していきました。休憩時間も集中するほどで、一人ずつ好きな模様でLEDライトを光らせていく姿を見てとても感動しました。参加者が自分の狙った通りにプログラムが動くことに楽しさを感じているようでした。私がそうであったように豊田高専やものづくりに興味を持ってくれる人がこれからも増えたら素敵だと思いました。



全景

クリスマスイルミネーション発表会の様子
https://youtu.be/mWJw_r5eFVk



学生会だより

令和3年度役員(退任のあいさつ)

会長

環境都市工学科 4年 **野村 康輔**

3年間の学生会活動の中で、多くのことを学ばせて頂きました。また、多くの学生、先生方及び職員の皆様方にお力添えいただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

副会長

情報工学科 4年 **笹山 雷雅**

昨年度に引き続き副会長を務めました。先生や他の執行部員に手伝ってもらいながらも自分なりに納得のいく執行部活動ができたと感じます。これまで2年間ありがとうございました。

副会長

環境都市工学科 3年 **稲石 翔太**

今年度副会長を務めました。私自身至らない点が多かったが、ほかの役員や先生に手助けをしていただき、無事に執行部活動を終えることができました。2年間ありがとうございました。

一般会計

情報工学科 3年 **大島 菜月**

今年度一般会計を務めさせていただきました。分からないことだらけで、色んな人に助けをもらいながら活動を行ってきました。普段の学生生活ではできない経験をさせていただきました。ありがとうございました。

書記

情報工学科 3年 **仲 泰志**

今年度書記を務めました。学生会執行部の一員として、先生や先輩方に支えていただきながら大変貴重な経験をさせていただきました。1年間ありがとうございました。

書記

機械工学科 2年 **伊藤 弘樹**

今年度書記を務めさせていただきました。自分の糧になるようなこれまでにない経験ができました。ご支援ご協力ありがとうございました。

内務

機械工学科 2年 **山本 涼太**

1年間学生会役員の内務として仕事をさせていただきました。今まで経験したことのないことばかりでした。この経験をこれからの学生生活に活かしていきたいです。ありがとうございました。

広報

建築学科 5年 **鈴木 陽登**

1年生の時に立候補してから4年間、学生会執行部として務めてまいりました。少しでも皆さんの学生生活をより良いものにできたのであれば、私は幸いです。ありがとうございました。



令和4年度役員(新任のあいさつ)

会長

環境都市工学科 3年 **深津 善**

会長を務めさせていただきます。学生会の活動に関わるのは初めてですが、皆様の学生生活を楽しくより良いものにしていけるよう尽力します。1年間よろしくお祈り致します。

副会長

機械工学科 2年 **山本 涼太**

副会長を務めさせていただきます。昨年度の学生会経験を活かして学生会行事、そして学生会活動をより良いものにできるよう頑張ります。1年間よろしくお祈り致します。

副会長

情報工学科 1年 **佐藤 凜**

副会長を務めさせていただきます。右も左もわからない状態ですが、皆さんの学生生活をより良いものにできるよう、全力で頑張ります!! 1年間よろしくお祈りいたします!

一般会計

情報工学科 3年 **大島 菜月**

前年度に引き続き一般会計をさせていただきます。前年度の反省を活かし、皆様をよりサポートできるように頑張ります。よろしくお祈り致します。

書記

環境都市工学科 4年 **野村 康輔**

4年目となります。良き伝統を残しつつ、書記として新しい学生会を支えていけたらと思います。不束者ではございますが、どうぞよろしくお祈り申し上げます。

書記

機械工学科 2年 **山田 壮太**

学生会執行部書記を務めます。皆さんが楽しく学校生活を送れるように、精一杯皆さんのために働きます。1年間よろしくお祈り致します。

内務

情報工学科 1年 **伊藤 桃**

内務を務めさせていただきます。学生会という貴重な経験をさせていただけること、大変嬉しく思います。まだまだ未熟者ではありますが精一杯頑張ります。1年間よろしくお祈り致します。

広報

情報工学科 1年 **清水 嘉人**

広報を務めさせていただきます。まだ学校のこと等にも明るくはないですが、みなさんの学生生活をよりよいものにするために、精一杯活動させていただきます。1年間よろしくお祈りいたします。



学寮だより

令和3年度寮生会 退任のあいさつ

寮長

電気・電子システム工学科 5年 ふじた こうだい 藤田 昂大

1年間寮長を務めさせていただきました。藤田昂大です。今年度は、多くの学生や教員方の協力を得て少しずつ豊田高専寮の良いところが戻りつつある一年となったと思います。過去の先輩方が素晴らしい寮にするためにさまざまな努力をされてきたのかを痛感し、貴重な経験となりました。この特別な年に寮長を務めさせていただいたことを誇りに思いつつ、今後の寮がより良いものになることを心から祈っています。ありがとうございました。

副寮長

機械工学科 5年 まえだ ゆうすけ 前田 雄祐

今年度も寮運営にご協力してくださった方々、ありがとうございました。副寮長として2年間も寮運営に携わってきた寮の成長を感じられたのはもちろんですが、自分の成長も感じることができました。運営会議やアセンブリなどを経験することで自分の考える力、聞く力などたくさん力を身につけることができました。これからの糧になる貴重な経験になったと思います。ありがとうございました。

副寮長

環境都市工学科 5年 おおいし もえ 大石 萌

長いようで短かった寮生会の一員としての1年が終わりました。副寮長として、あまりお役に立つことができませんでしたが、寮運営の裏側を学ぶことができ、とても光栄です。

1年間ありがとうございました！



副寮長

機械工学科 4年 たなか ともあき 田中 智彰

今年度副寮長を務めました、4年機械工学科の田中智彰です。寮運営に携わる中で、各行事における企画・運営のプロセスや、それに関わる学生の動き方などを実際に知ることができ、大変貴重な経験になりました。また、仕事を通して豊田高専の学寮の良さに改めて気付くことができました。今年度得た経験を、来年度も活かしていきます。ありがとうございました。

副寮長

機械工学科 4年 おだ しゅうぞう 小田 修造

令和4年度会計を務めさせていただいた小田修造です。私は一年間、会計を務めたことで多くの経験や知識を得ました。特にその中でも最も学べてよかったと思ったのは、寮のイベントや催し事の運営の流れです。役員会議やイベントを通して寮全体の流れを把握することで、どのようにして今の学生寮が成り立っているのかを知ることができました。この貴重な経験を生かし、これからの人生を生きていきたいと思えます。一年間ありがとうございました。

令和4年度寮生会 新任のあいさつ

寮長

機械工学科 4年 たなか ともあき 田中 智彰

この度令和4年度寮長に就任致します、4年機械工学科の田中智彰です。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、普段の寮生活では未だ多くの場面で不自由な生活を余儀なくされています。その現状を踏まえ、寮生の意見を積極的に取り入れ、先生方と協力しながら実情に合わせて臨機応変なルール作りをしていきます。副寮長としての仕事で得た経験を活かしつつ、寮長として皆さんにとってより過ごしやすい寮にできるよう努めてまいります。1年間よろしくお願致します。

副寮長

電気・電子システム工学科 4年 いぬづか みちこ 犬塚 通子

今年度副寮長を務めさせていただきます、4年電気・電子システム工学科の犬塚通子です。寮生会の一員として寮生の意見を聞き、先生や他のメンバーとの話し合いの場をもうけていきたいと思えます。コロナ禍での寮生活とはなりますが、皆にとってよりよい寮となるよう務めますので、一年間よろしくお願いたします。

副寮長

機械工学科 3年 さの たいち 佐野 太一

令和4年度副寮長を務めさせていただきます、3年機械工学科の佐野太一です。コロナ禍という制限のある中での寮生活が続きますが、新型コロナウイルスの1日も早い終息を願うと共に、その中でも手の届く課題から少しずつ改善していくことで皆様にとって住みやすい寮を作っていきます。精一杯頑張りますので、応援よろしくお願いたします。



副寮長

環境都市工学科 3年 なかもら ゆうや 中村 侑哉

この度副寮長を務めさせていただくことになりました、3年環境都市工学科の中村侑哉です。現在の寮の体制になってから2年経ち、来年度からは、コロナ禍の寮しか知らない学年が班長を務めることとなります。そのような状況の中でも、感染症対策を徹底しながら、寮ならではの楽しさをこれからの寮生に伝えられるような寮運営に努めていきます。未熟ではありますが、精一杯寮生会の仕事に向かいます。1年間よろしくお願いたします。

副寮長

情報工学科 3年 たなか りょうが 田中 涼雅

この度副寮長を務めさせていただきます、3年情報工学科の田中涼雅です。班長として、寮を支える立場として寮の活動に携わる中で、寮の良さやすばらしさを再確認できました。それらを継続させるだけでなく、よりよいものにするために寮生会の一員として頑張ります。一年間よろしくお願いたします。

卒業生メッセージ



Q1 ▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか。

部活動です。私は、柔道部とラグビー部に1年生から所属し、5年間続けました。初めは、先輩に多くのことを教えてもらっていましたが、徐々に先輩が卒業していき、後輩が増え、アドバイスをするようになってきました。それに伴い、部活の雰囲気も変わっていきました。この変化は、寂しくもあり、新鮮さを味わえる楽しいものでもありました。また、部活を続けていくと、技術面で上手くなっていったり、精神面で強くなっていったりするのがわかります。私は、この自分の変化を感じるのが好きでした。チームメイトにアドバイスをし、それができるようになると自分のことのようにうれしかったです。このように変化する環境の中で仲間と成長できたことがとても楽しく、印象に残っています。楽しく部活動に取り組めた顧問の方や仲間感謝しています。

Q2 ▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします。

私は、ラグビー、留学、資格の勉強など後先はあまり考えず、とりあえずやってみたいことを見つけてやってきました。失敗も多かったですが、気づきも多かったです。ここから何をやっても無駄なことはないという事を学んだので、在校生には新しいことに

機械工学科 5年

すずき しんご
鈴木 信吾



何でも挑戦してほしいと思います。始めたことを継続しなければいけないと考えると挑戦しにくくなると思います。しかし、3日坊主だったとしても3日分は成長できるというくらいの軽い気持ちの方が多くのことに楽しく挑戦でき、自分の成長につながると思います。

Q3 ▶ これからの抱負を聞かせてください。

私は4月から社会人になります。新しい生活の中で多くのことを吸収し、仕事に慣れていきたいと思っています。これからとても長い時間を共にする会社の上司や同期とよい関係を築き、豊田高専で学んだ知識や技術、心の強さで会社に貢献していきたいです。

Q1 ▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか。

高専での生活はどれも非常に思い出深いです。こうよう祭や寮祭のような行事とはもちろんのこと、友人たちとテーブルゲームをしたり、ポカラで山盛りのチキンポコラを食べたり、夜遅くまでテスト勉強をしたりした、なんでもない日常もとても幸せでした。そんな日常がもう終わってしまうと思うと感慨深いです。

Q2 ▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします。

友人を大切にしましょう、また、その友人らとたくさんの思い出を作りましょう。一緒にキャンプに行ったり、ウィンタースポーツを楽しんだりするのもいいですし、どこかに遠出せずとも、夜な夜なゲームでマルチプレイをしたり、テーブルゲームで遊ぶのもいいと思います。5年間という長い時を共に過ごす仲間はなかなかできるものではありません。高専時代の仲間は、在学中はもちろん、卒業後も自分を受け入れてくれる、ある種の帰る場所になります。そんな良き友人ができるように、残り的高専生活を謳歌してください。その先にはきっとより良い人生が待っていると信じています。

電気・電子システム工学科 5年

かとう たつき
加藤 辰樹



Q3 ▶ これからの抱負を聞かせてください。

私にはロボットの技術を用いて農業を全自動化するという夢があります。農業は今、高齢化に伴う人手不足が進んでおり、今後、更なる野菜の価格上昇が起こると考えられます。その結果として所得の低い人や、一人暮らしの学生は野菜を食べることが少なくなり、食生活が不健康になります。私は農業を全自動化することで農業が抱える問題を解決し、野菜の価格を抑え、誰もが健康な食生活ができる社会を作りたいです。この夢を実現するため、春から大学でも一生懸命勉強しようと思います。

Q1 ▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか。

4年生の時のこよう祭です。コロナ禍で制限の多い開催となった中、私は学科展示代表を務めることになりました。密集や接触を避けなければならないという、例年にはないルールの中で楽しませるにはどうするかという点についてはとても悩みました。それ以外にも、デバイスやプログラムなどは、ほとんど1からの制作だったので時間がなく、ハードワークだったのを覚えています。しかし、チームメンバーがそれぞれ自分の得意な分野を担当して頑張ってくれたことで、何とか形にすることができました。夜遅くまで一緒に作業したり、自然と意見が出てアイデアが生まれたりするなど、全員の努力が集まった瞬間はとても嬉しかったのと同時に、とても良い経験になったと感じています。

Q2 ▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします。

意識的に自分の記録を残してみてください。どこかに出かけて写真を撮ったり、日記やブログを書いたりしてみるだけでも良いです。その時の自分の行動や考えたことを目に見える形にしておく、次の行動やチャレンジに繋がりがやすくなると思います。

情報工学科 5年

みうら かずまさ
三浦 知将



高専は、知識だけではなく、何かを得るチャンスもくれるところだと感じました。授業で作ったものや何気なく参加したコンテストから、自分のやりたいことが見つかりもします。そういったきっかけを大切に、いろんなことにチャレンジしてみたいです。

Q3 ▶ これからの抱負を聞かせてください。

今後は大学に進学して専門の勉強を進めていきますが、就職したい分野が定まってきたので、そこで必要な知識を積極的に身に付けていきたいです。今しかできないことに力を入れて、有意義な時間を過ごせるよう努力していきたいと思っています。

Q1 ▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか。

これまで、留学期間を含め合計6年間在学していましたが、その中でも最も印象に残っているのは国際交流活動です。10ヶ月間のフィンランド留学ももちろん印象に残っていますが、パワーランチや国際交流ビデオコンテスト、寮のGFA委員会、留学生との交流、TEDxなど、高専にいるからこそ参加できる国際交流活動が特に印象に残っています。これらの活動では、日本にいながら多種多様な価値観や異文化、他言語を感じることができました。この経験は、私の世界観を大きく広げ、高専卒業後、大学進学して就職した後も、私の中で大きな価値として残ると確信しています。

Q2 ▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします。

皆さんは、高専生と高校生の違いが何かわかりますか？私は、勉強に縛られない自由な時間がたくさんあることだと思います。高校生が大学受験に追われている間、勉強以外のことにもチャレンジできる時間があるのです。これは「高専生の特権」だと思います。皆さんには、この特権を活かしてほしいです。高専は、良くも悪くも自由です。うまく生かせば強みになるし、何もしなければただ5年間が過ぎます。すべて自分次第ということです。部活に打ち込むのもいいし、ボランティ

環境都市工学科 5年

やまぐち こうへい
山口 耕平



アに挑戦してみるのもいいし、国際交流に積極的に参加してみるのもいいです。やってみたいこと、興味のあることにチャレンジしてみてください。そして皆さんの世界をどんどん広げていってください。

Q3 ▶ これからの抱負を聞かせてください。

4月からは大学へ進学します。高専で得た経験をもとに興味を持った学問を追求するとともに、大学に進学したからこそ生まれるチャンスを最大限活用することで、さらなる知見を広げていきたいと思っています。新たな挑戦が始まると思うとワクワクします。

最後になりますが、この高専6年間の中で、先生方はじめ多くの方々を支えてもらいました。本当にお世話になりました。心から感謝しています。ありがとうございました。

動き続けた5年間

Q1 ▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか。

高専5年間を振り返ると、何かに追われて忙しかった思い出ばかりが蘇ってきます。ですがその中でも特に印象に残っていることは、こよう祭の学科展です。私は展示代表として、受付テントの制作をしました。コロナ禍で制作期間が短く、ホームセンターと学校の往復で忙しかったですが、クラスメイトと一つのものを作り上げるという経験は、高専生活でも一番の思い出です。

サポートしてくれた会計担当、寒い中作業をしてくれたクラスメイト、アドバイスをくださった先生方、本当にありがとうございました。

Q2 ▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします。

まだやったことがない事、興味がある事、とにかくいろんなことに尻込みせずチャレンジしてみたいです。チャレンジと言っても、「いままでの自分を変える」なんて大きく構えず、「とりあえずやってみようかな」くらいの軽いノリで試してみれば良いと思います。結果的に上手く行って楽しかったら、それは大成功だし、もし上手くいかなかったり、自分には合ってなかったりしたとしても、チャレンジした

建築学科 5年

みやけ そうた
三宅 壮汰



だけで十分です。確実に経験値は溜まっているし、その経験値は、知らないうちに別のところで生きてきます。「将来に役立てよう」だとか、「誰々に評価されよう」だとかそういう難しいことは置いておいて、とにかくチャレンジしてみてください。きっと後で思い返したとき、「あのときやってみてよかったな」と感じる瞬間が来ると思います。

Q3 ▶ これからの抱負を聞かせてください。

4月から、名古屋の工務店の注文住宅部に就職します。昔から憧れていた設計の仕事ができるので、今からとても楽しみです。一つ一つできることを増やして、早く一人前になれるよう、健康に気を付けてつつ努力していきたいと思っています。

主体性が育てる

電子機械工学専攻 2年 あかいけ しょうま 赤池 祥真

豊田高専に入学して、7年が経ち電子機械工学専攻を修了することとなりました。私は、兄弟が豊田高専に入学していたこともあり、ものづくりについて学べることの他に、個人の時間が多いことや、自由な校風に憧れて本学校に入学しました。

入学して感じたことは、実際に個人の時間が多くあり、意識的に行動しなければならない点です。7年間を振り返ると、それぞれの学年で何かしら注力していたことがあり、その中で自分には何ができるかを考え、主体的に行動することができたと思います。高専生活を終えて、行動する内容は勉強や実習等だけでなく、なんでも構わないと感じています。部活や課外活動、学祭の運営、寮運営など豊田高専は学生が活躍できる場が多く存在します。その中で、自らが選択し、意識的に行動した事実や行動の中で身につけた知識、技能は社会の中でも自らの武器になり、人

生を豊かにすると考えます。在校生の皆さんには、ぜひ自らの意思で、学生にしかできない経験をしていただきたいです

豊田高専の生活を通じて、教育者としても、研究者としても素晴らしい先生方や豊かさを与えてくれた友人に恵まれ、技術者として、人間として大きく成長することができました。修了後は、企業に入社して働くことになりましたが、「生活の豊かさに貢献する技術者」を目指して、今後も様々なことに意識的に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、高専生活を通じてご指導いただきました教職員の皆様、関わってくれた仲間、支えていただいた家族に感謝申し上げます。ありがとうございました。



ものづくりの7年

電子機械工学専攻 2年 いしはら なおひろ 石原 直紘

豊田高専に入学して、あっという間に7年という月日が経ち、学生生活がいよいよ終わろうとしています。入学当初はまだ15歳で専門科目、寮生活など慣れない環境に戸惑っていた私ももう22歳になり社会という新たなフィールドに移ろうとしています。広報を執筆にあたりこれまでの学生生活を振り返ることとなりました。

私はものづくりが好きで豊田高専に入学を希望しました。そのため入学してすぐにロボコンに参加しました。そこで私は回路担当になりました。しかし、回路に関する知識は全くなく1から勉強をする必要がある上に先生がいて授業を受けるわけではなく本を読んで学ぶということにとっても苦労をしたことを今でも覚えています。そこで身につけた必要な知識を資料から学ぶという能力は専攻科での研究でもとても役に立ちました。

私は在学中にロボコンだけでなくインターンシップ、企業との合同実験、ボランティア等さまざまなことを行ってきましたが、や

はり一番印象に残るのは5年次から行っている研究になります。私は熊谷研究室の一期生として研究室の立ち上げに大きく関わらせていただくことができました。蓄積されたデータはないため自身で必要な技術を調べてどのように研究を進めるか熊谷先生と相談をして決めながら研究を行いました。そのため思うように使えなかった技術も多く、当初の想定よりも研究が進まずに残りを後輩に託す形になってしまいました。研究を通してものづくりの厳しさを実感することができました。

今後社会に出てからもここで学んだものづくりの楽しさ、厳しさを忘れないで頑張っていきたいと思います。最後になりますが私を支え続けてくれた先生、先輩、後輩、友人そして両親、家族に心から感謝の言葉を伝えたいです。

「7年間ありがとうございました。」



かけがえのない経験

いそがい ひかる
情報科学専攻 2年 **磯谷 光**

豊田高専に入学してから8年もの年月が経過しましたが、あっという間の出来事のように。この8年で得た数多くの経験を振り返り、この豊田高専に入学して本当に良かったと感じています。

本科3年生の時に1年間、スウェーデンへ留学しました。日本とは全く違う文化、言語、環境で過ごす生活は大変で、しかし楽しむもあり、刺激のある1年でした。社会の基本である他人と意見を交換し、理解することの重要性を異文化交流の中で実感しました。

専攻科での講義は本科と比べて、グループでのプロジェクト設計や発表を行う機会が増えました。特に「デジタル×ものづくりカレッジ」では、他専攻の学生や企業の方々とは半年近くかけてプロジェクトの計画、開発をして最後には成果発表を行うという、実際のプロジェクトさながらの実習を行いました。コロナ禍ということもあり例年よ

りも厳しいスケジュールでしたが、本科で培ってきた知識を生かした開発やメンバーとの積極的な情報交換を進めて最終的に一つの成果物を出せたことは、将来に社会に出るにあたって大きな自信になりました。

また、特別研究では本科での卒業研究をより発展させた内容を扱うようになり、学会発表を行う機会もありました。その中でより自分の研究分野に興味を持ち、それに関連した大学院への進学を決めました。講義や研究の合間を縫って試験勉強を進めて、志望した大学院に合格することができました。

この他にも、さまざまな思い出と経験を高専生活の中で育むことができました。これまで高専生活を支えてくださった家族、教職員の方々、共に過ごしてきた友人には大変感謝しております。ありがとうございました。



良き友人に囲まれて

はざま しゅんや
建設工学専攻 2年 **狭間 俊哉**

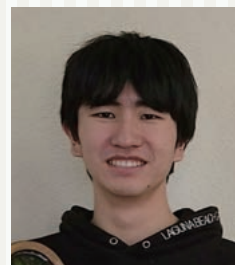
私が豊田高専専攻科に入学して早いもので2年の月日が経ちました。2年間を振り返ると、良き友人に囲まれ、様々な学びや多くの経験をいただいた、充実した学生生活を送ることができたと思います。

専攻科では、本科と変わらない教職員の方々のもとで学ぶことができ、勉強内容はもちろんですが、その他進路相談など多くことについて親身に相談に乗っていただきました。また、講義は少人数で行われ、アクティブラーニング形式の講義も多いため、プレゼンテーション能力を高めることができました。私にとってこれらのことは非常に良い体験であり、就職活動にも大いに役立ったと感じています。

この2年間において、私は、1年次に行われた全国高専デザインコンペティションが最も印象に残っています。この大会はケント紙と

木工用ボンドを用いて橋の模型を作り、その耐荷重量や軽さを競う大会でした。コロナ禍ということもあり前半は学校に行けなかったため、リモート会議を活用して強度向上を目標に、構造案等話し合いました。これらの工夫によって、学校が再開してからスムーズに橋制作、載荷試験等を行うことができました。最初には思うような耐久性が得られず苦労しましたが、十数回の載荷試験と補強を繰り返し行った結果、34チーム中4位の審査員特別賞を受賞できました。専攻科でこのような有意義な経験ができたことは今後の人生において大きな自信になりました。

最後になりますが、7年間の高専生活を支えてくださった教職員の方々、研究活動を通じてお世話になった皆様、クラスメイト、家族には大変感謝しております。ありがとうございました。



高専での7年間と専攻科生活

いなぎ ほだか
建設工学専攻 2年 **稲垣 穂高**

豊田高専での7年間がとうとう終わってしまいました。本科でも沢山の経験をしましたが、今回は専攻科での2年間について少し書きたいと思います。

専攻科で過ごした日々はとても濃い時間でした。授業に加え設計や研究、大学院への受験勉強など本当に良い経験を得ることができたと思います。一方で、当たり前ですが大変だったことも多くありました。専攻科進学後は、本科の時に仲良くしていた友達が就職して遠くに行ってしまう、唯一一緒に居た親友も休学してしまいました。また、元々が少人数制ということもあり、物事に1人で取り組む機会が多く寂しさを感じることも多々ありました。しかし、その反面1人になることは自分の将来ややりたい事と冷静に向き合う時間を作ってくれました。この時間は貴重だったと今にしてみれば思います。自分

に目指せるものは何かを考えたり、自分がどれだけ頑張っても勉強できるかをはかるという意味でも良い機会になりました。結果的に設計でのデザコン出場や大学院受験など、色々なことに挑戦することができ、自分のこれからにつながる生活ができたかなと思っています。

また、専攻科という環境では授業や研究などに対しても主体性を持って取り組むことができました。もちろんこれも大変ではありましたが、自身の勉強に対する好奇心に向き合うことができ良い経験となりました。

専攻科を含める7年間を支えてくださった先生方や友人、家族には心から感謝申し上げます。小学校よりも長い時間を過ごした豊田高専は、勉強だけでなく多くの側面から僕を成長させてくれました。大学院ではここで積み重ねてきたことを糧に設計や研究に取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございました。



留学生卒業メッセージ

後輩たちに向け

機械工学科 5年

HAJID BIN JAMAL ABDUL NASIR

ハジド ビン ジャマル アブドル ナセル

こんにちは。5年機械工学科のハジドです。マレーシアから来た留学生です。来日してからもう4年経ちました。母国や家族などから離れることは寂しかったが、今の生活にも慣れました。マレーシアで教科書から勉強していた日本語と日本で使っている日本語は少し違いました。最初は自分が言いたいことがあまり伝わりませんでしたが、豊田高専の寮で住み、大勢の日本人としゃべることですぐに日常の会話に慣れることができました。日本で勉強することは大変だと思いましたが、チューターだけでなく、周りのクラスメートも優しいので様々なことを教えてもらうことができました。後輩たちに向けてのアドバイスは、日本に留学に来ることは勉強だけでなく、しっかり日本の文化や生活など様々なことを学んで、交流を深めてください。何回も大変なことは起こると思いますが、諦めずに前向きに頑張りましょう。



雨降って地固まる

情報工学科 5年

NICHOLAS LIM HONG DA

ニコラス リム ホンダ

私の将来に向けた道のりの中で、自分の国からこんなに遠く離れた場所で学ぶことになるとは思ってもみませんでした。留学生として三年前に日本に到着した時から、自分がこれから直面するであろう大きな壁に恐れを感じることもありましたが、自分が心地よいと思える場所から外に出て、困難に立ち向かうことが自分を成長させるのだと知りました。日本に住み続けるなかで周りの友達が、ただの趣味と思えることにさえ、情熱を持って取り組んでいることにも大きな影響を受けました。時には困難があったとしても、勇気を持って立ち向かって、自ら体験しなければならぬと知りました。自分の人生を振り返ったとき、貴重な人生を後悔のないように、一生懸命やり切ったと言えるようにしたいと思います。日本で勉強するという貴重な機会を得られた幸運な私たちには、そのように生きていく義務があると思います。



習うより慣れる

環境都市工学科 5年

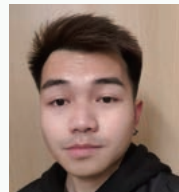
GERALD FIDLER ANAK BEGELI

ジェラルドフィドラ アナク ベゲリ

この最近数年間に私が気付いたのは、時は誰も待っていないということです。日本に留学する経験を通して 家族と離れて、文化的に異なる環境で生活することで、時間がいかに重要であるかに気づきました。お金は私たちが得ることができるものであり、多く持っている人がいれば、全然持っていない人もいます。しかしながら、時間は誰もが一日に平等に持っているものですが、一度それが過ぎると、取り戻すことはできません。このため、毎日の時間をうまく過ごせば、一日にいろいろな事が出来ると思います。それに対して、うまくできないと時間が足りないように感じることは当然です。

もう一つの重要なのは、自分の性格や自分なりの考え方を把握することです。留学生として、日本語は母国語ではないため、教えられたことや宿題が他の学生のようによく理解できず、授業が大変でした。そのため、自分で英語と日本語の両方で勉強して教えられたことを理解するのにかなり長い時間が必要です。ここでは精神的に強いことがいかに重要であるかを学びました。

人生において、ほとんどの人は苦勞と困難を否定的なものと思いますが、成功が非常に価値のあるものだとと思われることが多いです。私の経験から、苦勞と成功の両方が等しく価値があります。だから、辛い時であっても、前方向にうまく進めない時でも、いつも自分に言うのはこの悩みの裏にきっといくつかの身につけるレッスンがあるでしょうということです。



物は考えようかな

電気・電子システム工学科 5年

Gerelkhuu Batbandi

ゲレルフー バトバンディ

最近考えることは、物は考えようだと思っています。孫正義さんの「登りたい山を決める、これで人生の半分が決まる」を読んですごく感動しました。豊田高専に編入学した時、三つの目的を考えました。奨学金が続くように努力すること、健康な体を作ること、日本の大学に進学することを目指して来ました。来年度から電気通信大学に進学します。卒業するまでの2年間奨学金が続くことが決まり、ほっとしています。体を動かすことが好きになって特にジョギングするのは大好きです。進学については先生たちのおかげで実現出来ました。自分自身はもっと頑張れたら良かったと思います。私はこの三つの目的をはっきり決めていたので達成するには助かりました。自分の好きな本によると100人のうち3人は目的をはっきり決めている、10人は目的を時々考えている、60人は定期的に目的を変化させている、27人はあんまり目的がないらしい。大学に入ったら私は考えたことを叶えるために計画に沿って前向きに行きたいと思っています。



鉄は熱いうちに打て

建築学科 5年

MUNKHBAT MANDUKHAI

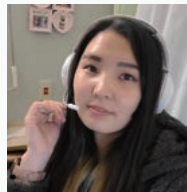
ムンフバト マンドハイ

3年前の私はまだ日本に来たばかりで、木を見て森を見ない人間でした。可愛い子には旅をさせよということわざのように、豊田高専での3年間は私にとってとても良い体験になったと思います。

日本に来て一人暮らしをはじめたのは、「言いたいことをはっきり言うべきだ」ということです。自分から何をしたいか、何者になりたい

かなどを他人に発言できるのが大事だとわかりました。私の人生は私だけのものです。たとえ家族と年上の人の指導があっても、それをアドバイスとして受け取るものだと思っています。なぜなら、私の人生を導いてくれるのは先生や家族のみなんだと思いますが、その道を歩くのは自分だけです。どんな結果が出て、自分で決めたものだから責任を持って、自分が一番良いと信じる方法で進むべきだと思います。

ゴール(目標)にたどり着くのは、自分で作った料理を美味しく食べていることと同じではないかと思っています。



感謝、一片の悔いなし



一般学科 教授 **神谷 昌明**

昭和62年に採用され35年間、豊田高専一筋に教育・研究を行ってきました。

着任時から、異文化理解に重点を置く長期海外留学に引き寄せられ、海外留学指導を行ってきました。現在、毎年40名前後の学生が世界10数ヶ国へ1年間の長期海外留学に出かけます。地道な草の根運動が実を結び、退職を迎え感涙にむせぶ思いです。海外留学の意義を理解していただいている教職員の皆様のおかげです。また代表者として科学研究費補助金(基盤研究(C))を6度獲得することができ、研究成果が随所に引用されていることにこの上ない喜びを感じています。科研の研究と並行して「ウィズダム英和辞典」の執筆にも恵まれ、初版から第4版まで20年以上にわたり、英和辞典にかかわれたことに対しても感謝の気持ちしかありません。豊田高専は工科系の高等教育機関ですが、文系の学問にも理解のある教職員が多く、今まで転職せず最後まで勤めることができたと感じています。学生も優秀であり、常に前向きに取り組んでいる姿勢には胸をうたれます。今は感謝の気持ちで一杯です。教職員の皆様、学生の皆様、35年間ありがとうございました。

オーディオブックの楽しみ



電気・電子システム工学科 教授 **西澤 一**

視力の低下を避けるため通勤電車での多読をやめ、オーディオブックでの多聴に切り替えてから14年が経ちます。おかげで平日2時間は英語で語られる物語の世界を楽しんでいます。その中で今年一番のお気に入りにはDr. Siriシリーズ、東南アジアのラオスで内戦に勝利した人民革命党が首都を掌握した1970年代が舞台のミステリです。主人公のDr. Siriは72歳、人民革命党の軍医としてジャングルを生き抜き、内戦終結で引退できると思っていました。ところが知識人材が枯渇していた新政権から、国内唯一の主任検視官に任命されてしまいます。植民地時代にフランスで教育を受けたSirilは、共産主義に傾倒した後の妻と一緒にいたい一心で革命に身を投じたのですが、元来、仏文学を愛し、科学的思考を身に付け、権力闘争に無関心なため、新政権では浮いてしまいます。幸い、検死スタッフや新しい仲間にも恵まれたSirilは、運び込まれた不審死体の死因を突き止め、隠れた犯罪を次々と暴き出していくのです。人生100年時代には安楽な隠居は期待できず、いつまでも新しい学びと挑戦、という気持ちにさせてくれる作品でした。

彼を手本に私も次のステージに進みたいと思います。みなさま、お世話になりました。

新型コロナウイルス感染対策対応で時が流れた



学生課長 **山口 範明**

令和4年3月31日で定年退職となります。豊田高専では、令和元年5月1日から2年11カ月お世話になりました。短い期間でありましたが、教職員の皆様に助けていただき、何とか最後まで職責を全うすることができました。ありがとうございました。

豊田高専での思い出は、着任早々アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2019の東海北陸地区大会の運営校だということを知りました。ラクビーワールドカップ2019と重なり、豊田市ではなく刈谷市のウイングアリーナ刈谷での実施となりましたが、皆様のご協力のおかげで無事大会を終えることができ、また、全国大会にも出場することができ、その頃は全く予想もしていなかった新型コロナウイルス感染症の流行への対応です。令和3年11月には落ち着いてきましたが、流行していた時期には、本校学生への感染が大変心配でした。特に愛知県(豊田市)は、感染者数も多かったため、毎日休まる時がなかったです。学生がPCR検査を受けたとの連絡を受けるたびに陰性であることをひたすら願っていました。(陽性だったらどうしようかと、寝付けられない日々もありました。)学生、教職員の皆様が感染対策を徹底された結果、クラスターも発生することなく感染者も最小限に抑えることができ安堵していました。このまま落ち着くかと思っていれば、令和4年に入りオミクロン株の猛威で神経質にならざるを得ない日々が最後の最後まで続いています。4月以降は、福井高専で再雇用職員として働く予定と決まっています。

最後になりますが、豊田高専の益々の発展と教職員の皆様のご活躍を願って退職のご挨拶とさせていただきます。

中学校と高専での39年



一般学科 教授 **伊藤 道郎**

教員生活の始まりは名古屋市の中学校からでした。当時の中学校は校内暴力や非行問題がピークの時期で、私が赴任した学校も例外ではありませんでした。通勤途中にあるファミレスの求人広告を横目に見ながら、「いつ転職しようか」をいつも考えていました。

二つ目の赴任校は、最初の学校に輪をかけて大変な学校でした。それでもいろいろと経験を積んだことで、次第に生徒指導の中心的な役割を任せられるようになりました。そんな時、以前から交流のあった豊田高専の先生から「私の後任として豊田高専に来ないか?」というお誘いをいただき今日に至っています。

豊田高専に来て最初に思ったのは、「日本語が通じる!」でした。豊田高専の学生さんは、ちゃんと話せばわかってくれるのです。「高専は天国だ!」と心から思いました。豊田高専でも中学校での経験を生かして、学生主事補、寮務主事補、指導教員など、学生指導に関わる役職を任せていただきました。そして陸上競技部の指導には多くの情熱を傾けてきたつもりです。全国高専大会の優勝、入賞も多くの種目で経験させてもらいました。今思えばこちらが指導する立場ですが、学生から教わることの方が多かったように思います。その意味では学生たちには感謝しかありません。今後も陸上競技には何らかの形で関わっていくことになると思います。

最後になりましたが、皆様方のご活躍と豊田高専のますますの発展をお祈りいたします。

最後の御奉公を終えて



事務部長 **岡田 正史**

昭和の時代から始まった文部科学省関係機関での長年の勤務は、本高専で定年退職を迎えることになりました。本高専が初めての高専勤務となりましたが、校長先生をはじめとした先生方、部下の事務職員に良くしていただき、最後の御奉公を大過なく過ごすことができました。感謝いたします。

令和2年4月に新型コロナウイルスの感染拡大のタイミングで着任し、通常との異なる学校運営に対応したり、対応マニュアルなどの作成に係わったりしたことが思い出に残ります。コロナと来て、コロナとともに去ればよかったのですが、まだまだ収束の見通しが立ちません。ぜひウイズコロナ時代に対応した前向きな教育研究活動を進めたいと思います。学生の皆さんもコロナに負けず、学校生活を楽しみ、社会に求められる技術者を目指していただきたいと思います。

関係の皆様、大変お世話になりました。高専から離れますが、応援団の一員として、豊田高専を応援します。

定年を迎えて



学生課 図書・情報係長 **三浦 秀喜**

◆人生満足度65点

小学生の時は中学生になったらもっと違う世界、自分に合う世界が広がると信じて始まった青い鳥探しの終わりも近づいている。

これから待ち受けている組織人から私人になる環境変化に自分がどう適応、変化するか少し楽しみでもある。

中途採用でこちらに就職できてから、それなりの紆余曲折を経て仕事に対して感じたことは、よく言われるように仕事半分、人間関係半分である。

好きな仕事でも人間関係で合わない満足度は半減し、逆に合わない仕事でも人間関係が良好な時はなんとかやってこられた。ただ一つ残念なことは、尊敬できるメンターが見つからなかったことである。

◆最後のロードマップ

男性の健康寿命72歳。65歳まで再雇用を助走期間としたら残り7年は短い。まだ定年後の目指すロールモデルは見つかっていない。まずは、自分と似た考え方の本などから先輩たちがどんな軌跡を辿ったかを調べ、自分の納得できる「終わり良ければ総てよし」を目標にこの体を返す時に自分らしく最善を尽くして活かしきったと言える行動をとりたい。でなければせっかく生を受けたのに申し訳ない。

こちら、学生サポート室です!



高専生活に関するアンケートから見えるコト

えもと たかし
学生サポート室長 一般学科 教授 **根本 貴志**

学生サポート室は、心身の健康・障害者支援・学生生活上の困りごとと相談といった事柄について担当しています。そのような活動の中で今回は「高専生活に関するアンケート」についてお話しします。このアンケートは、豊田高専生の心の健康状態の見守りを目的としています。平成30年度から、前期と後期に1回ずつ実施してきました(令和2年度前期のみ遠隔授業のため未実施)。心配な結果が出た学生さんにはスクールカウンセラーから連絡を取り、希望者には面談を受けてもらっています。連絡をもらった学生さんの中には「全く自覚ありません。大丈夫です」という人もいます。とは言うもののせっかくの機会(ご縁)なので、自分は心配ないと感じていても、面談のお誘いが来たら受けてみてはいかがでしょうか。

アンケート分析の結果、様々な項目ごとにスコア値が算出されます。その一部を紹介しましょう。以下の図に「進路目標」「学習意欲」「課題・目的の存在」の3項目について、スコア値の経年変化を示し

ます。スコア値は1から4までの値を取り、値が大きいほど状態が良いと考えます。3項目共に、スコア値は年々高くなっていくことがわかりますね。令和2年以降も状態が良くなっており、コロナ禍に負けず、学生の皆さんが意欲を持って学習に望んでいる様子が伝わってきます。

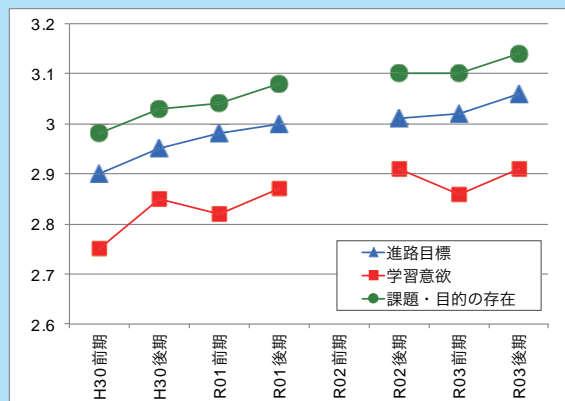


図. 項目のスコア値の経年変化

スキルとしての「自炊」を身につけよう!

きのもと なみ
看護師 **木之本 奈美**

高専の学生は将来、技術者として社会で活躍することを期待されています。その活躍の前提となるのが健康です。私たちの体は食べた物でできています。学生の皆さんには健康な体を作るスキルとしての「自炊」を身につけて欲しいと思っています。令和3年度は「自炊」に特化して、次のような活動を行いました:

1) 寮内イベント「高専生のための自炊塾を開催!

食育に興味を持った指導寮生と相談し、11月の寮内イベントとして「高専生のための自炊塾」を企画しました。九州大学の人気講座「自炊塾」を担当されている比良松道一先生に講演をお願いしました。比良松先生からは「作る・食べる」という行為が、自身だけでなく自身の子孫にまで影響するという広い視野を与えていただきました。また、残食がなくなる画期的な取り組みとして「弁当の日」や、比

良松先生で自身が担当されている「自炊塾」について紹介していただきました。自炊を通して、感謝の気持ち・自身の体を気遣い健康を大切にすることが育まれるという期待が持てる講演でした。

2) 自炊ガイドブック「高専めし」を作成!

「ほげんだより」では食育コーナー「校長めし」を連載してきました。田川校長先生のご好意により先生直伝の自炊レシピを紹介し、時には栄養バランスの講評も行ってきました。その記事を読んだ学生から「自炊に興味がある」との声が多数寄せられました。そのような学生のニーズに応える目的で、有志の学生と一緒に、高専生のための自炊ガイドブック「高専めし」を作成しました。作成に当たっては、保健室に来室した学生たちから色んな意見やアイデアをもらいました。また、自分の特技や性格を活かして、編集・装丁・レシピ収集といった制作過程に有志の学生が関わってくれました。今後このガイドブックを健康教育教材として活用したいと思っています。

普段使いのアロマテラピーはいかがですか?

やまだ さちこ
看護師 **山田 幸子**

人は無意識に、色々な香りを嗅ぎ分けているのだそうです。鼻から入った香り物質は、嗅覚器官を経て脳へ伝わります。そして、自律神経・内分泌系の司令塔である視床下部へ作用します。香りが心と体へ作用することにより、ストレスを緩和してリラックス効果を得る、これがアロマテラピーで期待される効果です。

例えば私たちが日常的に感じる香りの中にも、そのような効果を持つものがあります。紅茶のアールグレイに含まれる香り成分であるベルガモットは酢酸リナリル、リナロールという物質を含んでおり、鎮静・抗うつ・安眠効果が期待できます。緑茶は青葉アルコール

という植物性の香り成分を含んでおり、リラックス・ストレス緩和の効果があります。また、コーヒー豆の焙煎で抽出されるオイルの香りを嗅ぐことでリラックスすることができます。血流量が増加し、情報処理能力も高まるそうです。出汁の香り成分は副交感神経を活性化し、心拍数の減少によるリラックス効果があることが認められています。

このように、普段の生活の中でも香りを楽しむことができます。同じ香りでも、気分や環境によって香り方に違いがあるので、自分の気持ちに合うものを探してみてもいかがでしょうか。



令和4年3月卒業・修了予定者の就職進路状況

(令和4年2月1日現在)

機械工学科

- 食料品・飲料・たばこ・飼料
雪印メグミルク(株) (1)
- 化学工業・石油・石炭製品
出光興産(株) (1)
- はん用・生産用・業務用機械器具
平田機工(株) (1)
- (株)小松製作所 (1)
- DMG森精機(株) (1)
- 新明工業(株) (1)
- 電子部品・デバイス・電子回路
浜松トニクス(株) (2)
- 電気・情報通信機械器具
(株)明電エンジニアリング (1)
- タイケン工業(株) (1)
- 三菱電機エンジニアリング(株) (2)
- 輸送用機械器具
トヨタ自動車(株) (1)
- (株)トヨタプロダクションエンジニアリング (1)
- 豊田合成(株) (1)
- 電気・ガス・熱供給・水道業
中部電力(株) (1)
- 大阪ガス(株) (1)
- 関西電力(株) (1)
- 運輸業・郵便業
東海旅客鉄道(株) (1)
- 公務員等
自衛隊 (1)

- 進学
北海道大学 (1)
- 名古屋大学 (1)
- 九州大学 (1)
- 名古屋工業大学 (1)
- 室蘭工業大学 (1)
- 豊橋技術科学大学 (4)
- 豊田工業大学 (2)
- 豊田高専専攻科 (4)
- その他
自営 (1)
- 母国に帰国(留学生) (1)
- 未定 (2)

計39名

電気・電子システム工学科

- 化学工業・石油・石炭製品
三菱ケミカル(株) (1)
- 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品
(株)ハズ (1)
- 電子部品・デバイス・電子回路
浜松トニクス(株) (2)
- ブラザー工業(株) (1)
- 輸送用機械器具
スズキ(株) (1)
- トヨタ自動車(株) (1)
- 製造業(その他)
(株)シークス (1)
- 情報通信業
(株)きんでん (1)
- (株)メンバーズ (1)
- 運輸業・郵便業
東海旅客鉄道(株) (1)
- 複合サービス事業
(株)Papillon (1)

- 進学
東京大学 (1)
- 京都大学 (1)
- 大阪大学 (1)
- 東北大学 (1)
- 名古屋大学 (1)
- 東京工業大学 (1)
- 筑波大学 (1)
- 名古屋工業大学 (1)
- 三重大学 (1)
- 東京農工大学 (5)
- 電気通信大学 (1)
- 横浜国立大学 (1)
- 福井大学 (2)
- 信州大学 (1)
- 豊橋技術科学大学 (3)
- 愛知県立大学 (1)
- 滋賀県立大学 (1)
- 山口東京理科大学 (1)
- 豊田工業大学 (1)
- 豊田高専専攻科 (6)
- その他
未定 (2)

計46名

情報工学科

- 食料品・飲料・たばこ・飼料
サントリースピリッツ(株) (1)
- 電気・情報通信機械器具
コニカミノルタジャパン(株) (1)
- (株)メカニカルデザイン (1)
- (株)明和eテック (1)
- (株)デンソークリエイト (1)
- 製造業(その他)
(株)LIXIL (1)
- 情報通信業
NTTコムエンジニアリング(株) (1)
- (株)FIXER (1)
- (株)PLAY (1)
- (株)エヌ・ティ・ティ・データ(1)
- (株)ジーニー (1)
- チームラボエンジニアリング(株) (1)
- (株)マネーフワード (1)
- 運輸業・郵便業
東海旅客鉄道(株) (1)

- 進学
東京大学 (1)
- 大阪大学 (1)
- 東北大学 (1)
- 名古屋大学 (2)
- 筑波大学 (1)
- 名古屋工業大学 (2)
- 山梨大学 (2)
- 豊橋技術科学大学 (4)
- 豊田高専専攻科 (7)
- その他
未定 (2)

計37名

環境都市工学科

- 建設業
(株)日本ピーエス (1)
- 日鉄(イブライン&エンジニアリング(株) (1)
- 中日本建設コンサルタント(株) (1)
- エヌティティインフラネット(株) (2)
- 電源開発(株) (1)
- 清水建設(株) (1)
- 五洋建設(株) (2)
- (株)小島組 (1)
- 東京ガスパイプネットワーク(株) (1)
- 電気・ガス・熱供給・水道業
中部電力(株) (1)
- 東邦ガス(株) (1)
- 運輸業・郵便業
東海旅客鉄道(株) (1)
- 公務員等
国土交通省中部地方整備局 (2)
- 防衛省 (2)
- 愛知県庁 (1)
- 岡崎市役所 (1)
- 小田原市役所 (1)
- 瀬戸市役所 (1)
- 豊田市役所 (1)
- 北海道庁 (1)
- 名古屋高速道路公社 (1)
- 名古屋市役所 (1)

- 進学
大阪大学 (1)
- 北海道大学 (1)
- 名古屋大学 (2)
- 千葉大学 (1)
- 岐阜大学 (4)
- 愛知教育大学 (1)
- 豊橋技術科学大学 (1)
- 長岡技術科学大学 (1)
- 豊田高専専攻科 (7)

計45名

建築学科

- 建設業
(株)盛本構造設計事務所 (1)
- トヨタT&S建設(株) (1)
- 阿部建設(株) (1)
- 中日設計(株) (1)
- 徳倉建設(株) (1)
- 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品
愛知製鋼(株) (1)
- 電気・情報通信機械器具
ジョンソンコントロールズ(株) (1)
- 製造業(その他)
(株)LIXIL (1)
- フジクリン工業(株) (1)
- 電気・ガス・熱供給・水道業
東邦ガス(株) (2)
- 運輸業・郵便業
東海旅客鉄道(株) (3)
- JR東海コンサルタンツ(株) (1)
- 中日本高速道路(株) (1)
- 不動産取引・賃貸・管理業
(株)ザイマックス (1)
- 住友不動産(株) (1)
- 中部国際空港施設サービス(株) (1)
- 公務員等
松本市役所 (1)

- 進学
名古屋大学 (1)
- 熊本大学 (1)
- 京都工芸繊維大学 (1)
- 豊橋技術科学大学 (4)
- 東京都立大学 (1)
- 札幌市立大学 (1)
- その他
母国に帰国(留学生) (1)

計30名

電子機械工学専攻

機械工学科

- 電気・情報通信機械器具
日置電機(株) (1)
- テルモ(株) (1)
- 輸送用機械器具
本田技研工業(株) (1)
- 情報通信業
(株)トヨタシステムズ (1)

電気・電子システム工学科

- はん用・生産用・業務用機械器具
オークマ(株) (1)
- 輸送用機械器具
三菱重工業(株) (1)

- 進学
名古屋大学大学院 (1)
- 電気通信大学大学院 (1)
- 奈良先端科学技術大学院大学 (1)

計9名

情報科学専攻

情報工学科

- 建設業
日揮ホールディングス(株) (1)
- 情報通信業
ウォンテッドリー(株) (1)
- 富士通クラウドテクノロジーズ(株) (1)
- (株) jig.jp (1)

- 進学
名古屋工業大学大学院 (1)

計5名

建設工学専攻

環境都市工学科

- 公務員等
国土交通省 (1)
- 愛知県庁 (1)
- 豊田市役所 (1)
- 多治見市役所 (1)

建築学科

- 建設業
(株)中部 (1)
- 不動産取引・賃貸・管理業
(株)ザイマックス関西 (1)

- 進学
大阪大学大学院 (1)
- 名古屋工業大学大学院 (1)

計8名

() は人数

Calendar

10 OCTOBER 2021

- 10月 1日 授業再開
- 10月 6日 避難訓練
- 10月9日~10日 オープンキャンパス
- 10月 9日 全国高専プログラミングコンテスト
- 10月 21日 体育祭
- 10月 24日 ロボットコンテスト地区大会(オンライン)



自動車等実技研修会



自動車等実技研修会



体育祭



こうよう祭

11 NOVEMBER 2021

- 11月 3日 自動車等使用実技研修会
- 11月6日~7日 こうよう祭
- 11月 6日 東海北陸地区英語プレゼンテーションコンテスト
- 11月 11日 救命救急講習会
- 11月 14日 東海地区高専体育大会ラグビー優勝決定戦
- 11月 17日 学生総会
- 11月20日~21日 全国高専体育大会バスケットボール
- 11月 23日 関東信越・東海北陸地区高専体育大会ラグビー代表決定戦



こうよう祭



こうよう祭

12 DECEMBER 2021

- 12月 4日 全国高専デザインコンペティション
- 12月 12日 学寮いも祭
- 12月 24日 冬季休業開始(~1/5まで)



救命救急講習会



救命救急講習会

1 JANUARY 2022

- 1月 6日 授業再開
- 1月 15日 令和4年度推薦選抜面接試験
- 1月 22日 学内対抗駅伝



学生総会



学生総会

2 FEBRUARY 2022

- 2月10日~18日 本科定期試験
- 2月 13日 令和4年度学力選抜入学試験
- 2月 18日 閉寮(閉寮式)
- 2月 26日 TED*ToyotaKOSEN



全国高専バスケットボール



東海地区ラグビー

3 MARCH 2022

- 3月 18日 修了式・卒業式



デザインコンペティション



学寮いも祭



学内対抗駅伝 男子の部



学内対抗駅伝 女子の部